

## No.119 会社訪問

代表取締役社長 上田 安男氏



## ヤマト物流株式会社

会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 上田 安男

本社：〒272-0014 千葉県市川市田尻1-11-1

TEL：047-377-7595

厚木営業所：神奈川県愛甲郡愛川町中津4008 TEL：046-285-4776

厚木第二営業所：神奈川県厚木市下川入115 TEL：046-280-5375

大阪営業所：大阪市福島区大開2-17-24 TEL：06-6464-3631

設立：昭和47年（1972年）

事業内容：一般貨物自動車運送事業

倉庫業務および物流加工業務

廃棄物収集運搬および適正処理支援など

クリーンルーム・クリーンブース販売施工

URL：<http://www.yamato-lgs.co.jp/>

聞き手：南 明則（広報副委員長） 岡田 康弘（事務局長） 取材・編集：クリエイティブ・レイ㈱

時代の荒波にさらされる業界で奮闘  
多様な問題の解決に応える物流会社

— 創業の経緯や、御社の主な事業内容についてお聞かせいただけますか。

弊社では、理科学機器、精密機器、研究設備機器、医療機器、重量機器といった各種機器の運搬、搬入、組立、据付から撤去、解体、廃棄処分までの一連の作業、その他、各種機器にまつわる電気工事、給水・排水工事、事務所や研究室などのリフォーム、移転業務なども併せて手がけています。弊社では事前に綿密な計画を作成し、工程管理の下、安心安全を第一に作業を実施しています。

昨今は産業廃棄物の収集運搬や各種機器のフロンガスの回収、適正処理、またアスベストの除去、処理といったご要望が多く寄せられるようになりました。こうしたニーズの高まりにお応えするため、2012年にはアスベスト除去作業場を本社屋内に新設し、厳正な管理の下、適切に処理を行っています。

また、輸送につきましても空調管理のできる車輛をはじめ、精密機械の大敵である振動や衝撃を抑えるエアサスペンションパットを搭載するなど安全で安心な

運搬を徹底しています。

こうした①物流、②技術、③リサイクル、④移設・移転の4つのカテゴリーで理科学業界のお客さまのお役に立てるよう、日々業務に取り組んでいます。

— 創業の経緯や当時の様子をお聞かせいただけますか。

1982年（昭和57年）12月にヤマト科学（株）さまの子会社としてヤマト物流は設立されました。弊社はヤマト科学（株）さまの関連会社として長年、運送業務で携わっていたのですが、2002年（平成14年）にヤマト物流と野田運送との業務提携を経て、ヤマト科学（株）さまより経営権を譲渡していただくことになり、野田運送のグループ会社として今日に至っております。

業務提携した当初は、神奈川県厚木にある物流センターでの業務がメインだったのですが、お客さまからのニーズによって、この15年の間で搬入、搬出、据付、各種工事、撤去、産業廃棄物の撤去やフロンガス、アスベストの回収・処分などを取り扱う業務へと次第に広がっていきました。

— 経営者として印象に残っている出来事や喜びを感じたことなどがあれば、お聞かせいただけますか。

私が社長に就任したのは2009年(平成21年)です。当時はまだプレハブ2階建ての倉庫と車庫を併設した事務所でした。床は傷み、至る所が穴だらけ。トイレは男女共用で使い勝手が悪く、休憩室や仮眠室も備えておらず、お世辞にも快適な環境とは言えませんでした。採用面接にやってきた人が入口がどこかわからず、そのまま面接を受けずに帰ってしまうようなありさまでした。

そして5年前に念願叶い、新社屋が完成しました。そのころから新規で採用する社員も徐々に増えていきました。社屋が新しくなったことで以前よりも明らかに仕事の質も良くなりましたし、なによりも社員たちに快適な職場環境を提供することができ、たいへん嬉しく思っています。

2010年には山梨県南アルプス市に物流センターを開設しました。開設当初は製品倉庫としての利用を計画していたのですが、需要が少なかったため、あえなく撤退する運びとなりました。

今年2017年10月、厚木市に敷地面積約500坪の第2営業所を開設いたしました。そちらでは産業廃棄物の収集運搬や積み替え、保管、中間処理などの業務を行うことを視野に入れていますが、それ以外にも休憩所や仮眠施設などの充実、運送業法に適合した施設とすることで従業員にとって働きやすい環境づくりをめざしています。

また、都市計画、運送業認可、建設業認可など、法令遵守することができたことで、それぞれが可能性を秘め成長してくれると信じています。

この8年間は社員たちの意識改革に取り組みながら、新たな施設の進出や撤退などを経て、さまざまな事業の中で社員たちが成長していく姿を目の当たりにすると経営者としてとても喜びを感じます。

— これまで経営上もっとも困難だとお感じになった時期や出来事があれば、お聞かせいただけますか。

2002年(平成14年)、長男にヤマト物流への出向を命じ、2007年(平成19年)には代表取締役役に任命いたしました。二年ほど任せていたのですが、体調を崩してしまい、急遽長男に代わって私が社長に就任することになったのです。定年を迎え、これから第二の人生を大いにエンジョイしようとしていた矢先だったのですが、後任の候補者もいなかったため、ピンチヒッターとして会社の指揮を執ることになりました。毎週火曜から金曜までをこちら千葉県市川で過ごし、週末に大阪に戻るという単身赴任生活も今年で10年になりました。

社長に就任後は、社員たちの意識改革だけでなく物流改革にも取り組み、着実に実行に移すことでこれまで抱えていた諸々の問題点を改善してまいりました。これからのヤマト物流を背負って立つ、若くて将来有望な人材を採用することなど喜ばしい出来事があった一方で、慢性的な問題でもある人手不足はなかなか解消に至っていません。人手不足の解消に向けてあらゆる手段を講じつつ、社員たちに過重労働を強いることのないよう「働き方改革」を今年度の経営計画にも盛り込んでいます。さまざまな取り組みを推し進めているのですが、なかなかうまくいっていないというのが現状です。



本社物流センター（千葉県市川市）



南アルプス物流センター（山梨県南アルプス市）

## 経営資料

人手不足のあおりを受けて名古屋営業所が一時閉鎖、先ほど申し上げた南アルプス物流センターの一時撤退など困難な場面に追い込まれることもありました。お客さまにご迷惑がかからないよう協力会社と業務委託するかたちで難局を乗り切っていました。

— 御社の経営理念や経営方針などをお聞かせいただけますか。

弊社は、お客さまにも環境にも優しい最高の物流・搬入・据付・技術・サービスを実現し、進化する企業として社会の発展に貢献していきたいと考えています。まずは、お客さまの「困りごと」に真摯に耳を傾け、改善に向けた最適かつ、最高のサービスをトータルでご提案しています。

今年度の弊社の目標としては「無事故・クレームゼロ達成」を基本としつつ、「働き方改革」を大きな目標に掲げるとともに、「人材確保・育成」、「社内の見直し」といったテーマも挙げています。

経営方針につきましては、社長就任後の2013年（平成23年）より、取り引きをさせていただいている方々をお招きし、経営計画を発表する経営計画発表会を年に一度開催しています。過去、門前仲町や銀座、浅草、船橋、浜松の会議室を借りて開催してまいりました。今回は厚木の産業廃棄物の処理業計画地の見学と合わせて開催致しました。

— 御社の現在の課題、今後の事業目標などをお聞かせいただけますか。

現在、弊社が抱える課題は先ほど述べたとおり、

人手不足の一語に尽きると思います。物流はもちろん、搬入、据付、撤去、処理などはどんなに機械化が進んでも人にしかできない作業がほとんどです。弊社では各拠点での搬入、据付、撤去、廃棄、フロンガス、アスベストの回収までの一貫業務を行う作業員の育成、教育といった人づくりを大きなテーマにしなが、物流会社として大手物流会社と提携することで利便性を高めつつ、コストの削減を実現していきたいと考えています。

人手不足のほかにも社員の待遇の改善や、見積もりシステムなどのIT化の推進、廃棄処理の機械化など弊社が取り組むべき課題はまだ山積しています。今後、厚木市に開設する産業廃棄物中間処理工場でフロンガスやアスベストの回収、機器の解体といった業務に力を注ぐとともに、解体時のリサイクル率のアップも重要な目標です。金など貴重な金属が多く使用されている基盤は「都市鉱山」とも呼ばれ、大切な資源のひとつとなっています。現在はひとつの機器を解体した後、リサイクルされるのは10%ほどのパーツ。残りの90%は廃棄されているのですが、将来的にはそれを逆転して90%までリサイクルできるようにしていきたいと考えています。

再三申し上げているように、搬入、搬出、据付、各種工事、撤去、産業廃棄物の撤去やフロンガス、アスベストの回収・処分などを扱う業務のほか、弊社では不要な機器などの引取りや、買取、転倒防止作業、クリーンルームなどの販売も手掛けるなど、科学機器の分野でお客さまの困りごとを解決するために幅広くお手伝いをしていきたいと考えています。





——上田社長の座右の銘、愛読書、敬愛する歴史上の人物、心掛けているモットーなどがあれば、お聞かせいただけますか。

座右の銘は「不撓不屈」です。高校時代、柔道部員だったのですが「絶対に倒されるな、投げられるな」という意味合いで監督がよく口にしていた「不倒不屈」という言葉が頭の中に刷り込まれてしまい、いつの間にか座右の銘になってしまいました。(笑)

また、「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という連合艦隊司令長官・山本五十六の名言も経営者として大切にしている言葉のひとつです。

最近目は悪くなってきたこともあり、手軽に読めるページ数の少ない本を好んで読むようになりました。もっぱら大阪から東京を往復する新幹線の移動時間を読書にあてています。

庶民が家業を守るための術を紹介した「江戸に学ぶ 人育て人づくり」(角川 SSC 新書) や、小冊子「井伊直虎に学ぶ危機の時代の戦国マネジメント」(日本マネジメント・リサーチ) という二冊を市川商工会議所で見つけ、試しに読んでみたのですが、ともに知恵を絞って時代を生き抜いた先人たちの知恵が書かれていました。非常に興味深い内容でたいへん勉強になりました。

それ以外では「こども孫子の兵法」(日本図書センター) という本も最近読んだ中でお気に入りの一冊となりました。もともとは孫に買い与えた本だったのですが、子ども向けということもあり、とてもわかりやすくまとめられていました。孫子の兵法は昔読んだことがあったのですが、あらためてその奥深さを再認識することができました。孫子の兵法は会社や組織でも大



上田社長(中央)と本社物流センターの皆さま

いに役立つところがたくさんあり、今後の会社経営にも活かしていければと思います。

——上田社長の趣味や、休日に楽しんでいることがあれば、お聞かせいただけますか。

趣味はゴルフです。結婚した当時、妻に教えてもらったことがきっかけで、それ以来すっかりとりこになってしまいました。毎週日曜日には大阪近郊のゴルフ場でプレーすることが多いです。ゴルフをやっていたおかげで、仕事関連の方々との関係が深まったことはもちろん、仕事とは無関係の方々ともネットワークを構築することができました。ゴルフによって結ばれたつながりは私にとって、かけがえのない財産となっています。

——最後に当協会に対してご意見・ご要望などがありましたらお願いいたします。

この度、野田運送が大阪科学機器協会の荒木理事長のご紹介で入会させていただくことになりました。合わせて東海科学機器協会へ入会させていただきました。野田運送とお取引のあるお客さまの多くが大阪・東海科学機器協会に入会されていて、研修、勉強会、各種行事などがたいへん充実していると聞きしております。ヤマト物流は関東ではお客様が非常に少なく、営業拡大を目指して東京科学機器協会に入会させていただきました。これまで物流・運送業界一筋だったこともあり、知識や経験が不足していると自覚しています。今後、行事や勉強会などにも積極的に参加させていただき、会員の皆さまと親睦を深めるとともに、科学機器業界についての知識の向上やスキルアップにつなげていければと思います。